



茶農家とデザイナーの二刀流

やまよ茶園 × colour

やりたいこととやらなければいけないことは、
じぶんのお茶を、きちんと魅力的に伝えること。

やまよ茶園の
お茶！



想いもリンクさせる、 アグリカルチャー・デザイン

農業高校を卒業後、茶問屋での修行や海外留学を経て、かねてから興味があったデザイン業界に飛び込み、都内を中心にアートディレクションやグラフィックデザインの実績を重ねた庄司裕昭さんは青野の茶農家やまよ茶園の6代目。

「デザインのちからをプラスして、いのちを繋ぐ1次産業の生産者の想いと消費者をつないでいきたい」。

そんなコンセプトを掲げ、2015年からブランディングやマーケティングに精通した姉のキミヨさんとともに、自身の経験を活かしたアグリカルチャー・デザインを手がけるユニット「colour」を立ち上げました。



デザインをプラス

キミヨさんは、静岡県や商工会議所から認定される専門家として、6次産業化のプランニングにも携わっています。

「畑や田んぼで仕事をしているだけではなかなか気づかない、デザインやブランディングの重要性をもっと知ってほしい」と語るcolourのお二人は「早い段階から想いを共有し、イメージを作り上げていくことが大切です」と教えてくれました。



沼津市茶業振興協議会「沼津茶」のアートディレクション

深緑に、日本的な文字で「茶」。スタンダードながら、言い換えればありきたりなお茶のパッケージ。沼津のお茶はポテンシャルが高いのに、他の産地と比べ認知度が低く、評価されない現状がありました。

沼津らしく、それでいて個性的。茶農家の「おいしいお茶をたくさんの人に飲んで欲しい」という実直な想いもデザインに落とし込んだレトロモダンなロゴやパッケージを考案しました。



店舗DATA

沼津市青野454 ☎055-967-4155 <https://www.colour-colour.jp>